



立秋も過ぎたというのに暑い日が続いています。それでもツクツクボウシが鳴き始めたり、ウスバキトンボや赤とんぼの仲間が姿を現し始めたりして、秋が近づきつつあることを感じさせてくれます。植物もソメイヨシノの葉が色づき（左）始め、周回路上に落ち葉がたまり始めています。草原に足を踏み入ると大きくなったバッタが飛び出すようになってきました。



チャバネセセリ イチモンジセセリと同じように、秋が近くなると数が増え、よく見かけるようになります。



オオニシキソウ

北アメリカ原産で、クリスマスになるとよく見かけるポインセチアと同じトウダイグサの仲間、花の作りがよく似ています。縁石沿いに生えていました。



ヒメハラナガツチバチ

触角が短い雌でした。母蜂は地面に潜ってコガネムシの幼虫を探して産卵します。雌の寿命は一月ほどです。



ニイニイゼミ

桜から声が聞こえてくるので蟬を探しました。ニイニイゼミの背中中の配色は、桜の幹によく似ています。



ショウリョウバッタ成虫

7月の終わり頃から成虫が見られるようになりました。ショウリョウバッタはネギを食べます。糸の先につけてバッタ釣りをしたことを思い出しました。



シャシャンボの実

ツツジの仲間、実が黒く熟すと食べられる実です。葉をなでるように触った時、裏側の主脈上に引っかかるのを感じればこの植物です。



シロテンハナムグリ

樹液によくやってきます。飛ぶときは、カブトムシなどとは違って、前翅を閉じた状態で後ろ翅を広げて飛ぶことができます。



ジャノメチョウ

前翅に大きな蛇の目模様があります。また後ろバネに沿って白い模様が見られます。草原や林縁にすむ蝶で、ふわふわと飛びます。見られるのはあと一月くらいです。



コバネイナゴ幼虫
体調20ミリくらいで、まだ翅が長くなっていません。



成虫 →



ヤリグモ卵のう

オナガグモより長かったのでヤリグモとしました。オナガグモと同じように蜘蛛を捕食する蜘蛛です。粒々は孵化したくもが脱皮した後で、子供はすでに分散していました。



モミジアオイ

池の北東の角の水際から生えています。北米原産の多年草です。ハイビスカスやフヨウの仲間です。葉がモミジのように5つに裂けているのが名前の由来です。



コナラ

膨らみつつあるのがどんぐりの赤ちゃんです。その付け根に茶色のとがったものが見えます。これは冬芽です。どちらも一緒に大きくなっていきます。

植物 アカツメクサ、ハルシャギク、ヒメジョオン、オオニシキソウ、アレチマツヨイグサ、メリケンムグラ実、タカサゴユリ、ツククサ、ヒルガオ、ブタナ、ヨウシュヤマゴボウ実、イシミカワ実、ヤマノイモ、ヘクソカズラ、カラスウリ、アレチマツヨイグサ、ヒヨドリバナ、ベニバナボロギク、モミジアオイ、トダシバ、メガルカヤ、シモツケ、クチナシ、サルスベリ、アメリカノウゼンカズラ、アカメガシワ実はずる、イソノキ実色づく、クサギ、マメガキ実、ミヤマガマズミ実、コナラ実と冬芽、イヌザンショウ実、ヌルデ花雷、ネムノキ実、モウソウチク、**昆虫** キチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ジャノメチョウ、チャバネセセリ、アオスジアゲハ、モンクロシャチホコ、みの虫(オオミノガ)、キリギリスめす、ホシササキリ幼虫、クルマバッタ、ショウリョウバッタ、マダラバッタ、コバネイナゴと幼虫、オンブバッタ幼虫、アブラゼミ羽化殻、ニイニイゼミと羽化殻、クマゼミ声、アジアイトトンボ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、マユタテアカネ、シロテンハナムグリ、コフキゾウムシ、キアシナガバチと巣、タイワンタケクマバチ、ベッコウクモバチ、ヒメハラナガツチバチ、**クモ** ジョロログモ幼体、ネコハグモ、ナガコガネグモ、ヤマシロオニグモ、ヤリグモ卵のうと団居後、スズミグモ、アシナガグモ、チュウガタシロカネグモ、**鳥** スズメ、メジロ声、キジバト、カワウ、**その他** カナヘビ幼体、(虫瘤:ヌルデミミフシ)、

次回9月8日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前・雨天中止 参加費100円